

ニホンナシ‘新高’の生理障害に関する研究

第1報 ていあ部に発生する裂果の発生要因と

ジベレリンテープによる裂果軽減

木村和彦・渡辺 勇

Studies on Physiological Disorder in Japanese Pear ‘Niitaka’

. Factors Related to Fruit Cracking at the Calyx Ends and the
Control using Gibberellin Tape

Kazuhiko KIMURA and Isamu WATANABE

要 約

ニホンナシ‘新高’のていあ部に発生する裂果の発生実態を調査し，果実の肥大特性等から裂果の軽減技術について検討した．

- 1．裂果の発生には年次間差があり，1果重が大きいほど裂果発生率が高くなった．
- 2．4PU処理区および無処理区に比べ，GAテープおよびGAペースト処理区は，果実の生育初期（幼果期）の肥大が促進された．また，GAテープ区は1果重の増加が大きかった．
- 3．GAテープ（満開後17日区，30日区），GAペースト（満開後30日区）を果梗部に貼布することにより，裂果発生率が軽減した．特に，GAテープを満開後30日に処理した区でその効果が高かった．

キーワード：栽培，果樹，ナシ，生理障害，裂果